

Aoyama Gakuin Archives Letter

青山学院資料センターだより **22** 号



勝田館

高木壬太郎院長の推進した青山学院拡張計画に応じて、1918年に、校友（のちに神戸市長も務める）である勝田銀次郎の単独寄付により建てられた高等学部 of 校舎。不幸にも1923年の関東大震災により倒壊し、僅か5年という短命であった。建物の設計は、東京駅（中央停車場）の設計で有名な辰野金吾。現在、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているが、辰野金吾は当時大流行していたスペインかぜに罹患し、1919年に他界している。

青山学院史探訪

「日本女性の自立を求めて - 青山女子手芸学校の挑戦 -」 小林瑞乃 — 2

資料センター所蔵資料紹介

「青山ジュニア・タイムズ」 森田久美子 — 4

資料センター利用状況・日誌抄 — 6

受入れ資料 — 7

利用案内ほか — 8

日本女性の自立を求めて－青山女子手芸学校の挑戦－

女子短期大学 現代教養学科日本専攻 准教授 小林 瑞乃

青山学院の女子教育の発展に少なからぬ貢献を果たしながら、今ではほとんど忘れられた学び舎がかつてあった。「青山女子手芸学校」である。その来歴と実践とを、ここで振り返ってみたい。

その創設には、二人の女性宣教師フローラ・ハリスとエラ・ブラックストックの尽力があった。特にブラックストックは手芸学校の任務を全て引き受け、日本女性の育成を自身の使命として生涯の多くを捧げたのであった。



フローラ・ハリス
(1850-1909)



エラ・ブラックストック
(1842-1916)

フローラ・ハリスは、1873（明治6）年にメソジスト監督派教会が日本宣教を開始した初代宣教師の一人である夫ハリスとともに北海道に渡って遺愛女学校（函館）を創立し、日本語に精通して日本文化をよく理解し、日本社会に関する論考を多数執筆していたのである。そんな彼女が特に驚いたのは日本女性の地位の低さであり、現状を嘆いて女性たちの自立の必要性を痛感していた。

日本のような家族制度の中で、女性達の社会的地位を向上させるためには、彼女達の手に技術をもたせ、自活の道を開かせることがぜひ重要である。そのためにホームを建築し、手芸を教え、職業につかせるために職業学校を一日も早く開く必要がある。

この思いを本国アメリカに訴え、講演や新聞雑誌で呼びかけ、職業婦人養成のためのホーム建設への熱心な運動の結果、メソジスト監督派教会女性海外伝道協会が日本に派遣したのがブラックストック宣教師であった。

1889（明治22）年12月に来日したブラックス

トックは海岸女学校に着任し、翌1890年3月に海岸女学校の一室に手芸教室を開設した。初代生徒は、岡本ふみと宮川りうの2名であった。さらに、1891年に東京英和女学校と合併して「東京英和女学校職業部」となった。そのカリキュラムは、和洋裁縫・西洋飾縫・日本刺繍・製図とともに英語・聖書その他国語など普通教養科目を課した。この年に青山学院の前身東京英和学校校長となった本多庸一の家族が構内に居住しており、妻貞子は91年に職業部の聖書の教師となっている。

軌道に乗った1893（明治26）年には校舎を新築し（ハリソン記念館）、「東京英和女学校手芸部」と改称した。この記念館は華麗な西洋館として親しまれ、1923（大正12）年の関東大震災まで手芸部の校舎として使用されたという。この改



青山女子手芸学校教職員 撮影年不詳／ブラックストック、本多貞子（本多庸一の妻）、岩村透ほか



東京英和女学校手芸部校舎（ハリソン記念館）
1893（明治26）年12月16日竣工



刺繍作品 (Love Conquers All) 1893 (明治26) 年

称を機に新たに学科課程を整え、普通部と専門部を設置し、専門部には裁縫科・刺繍科・彫刻科・活花女礼茶道科の四科を設けた。

授業課目は多数用意されており、裁縫・編物・刺繍・飾縫・茶湯・活花・図案・絵画・彫刻・女礼・倫理・聖書・料理・家政・簿記・国語・算術・英語・習字などがおかれ、全国の手芸専門学校の水準をはるかに超え、この当時にあって技術的のみならず教養的にもレベルの高い教育を志向していたのであった。

当時の新聞では、手芸部では女学生が「自営自活の道」を立てるための教育を施し、殊に「女子に象牙彫刻を教授するは同校を以て嚆矢となす」(『読売新聞』1894年2月28日)と報じている。

こうした環境下で学んだ生徒の作品は精巧で優れたものが多く、そのほとんどが外国人に購入され、制作中に売約済みとなるものなど多くの注文を受けていたという。

現存するものは数少ないが、そのレベルの高さを今に伝えている。例えば、1893年に制作された「刺繍作品 Love Conquers All」は、深緑色の生地以太い金糸が縫い付けられた、シンプルだが凛とした雰囲気の良い作品である。

手芸部は、さらに1899 (明治32) 年には文部省訓令第十二号によって各種学校となり、「青山女子手芸学校」として独立した (1914年に再び合併して「青山女学院手芸部」となる)。手芸学校の世評は高く、上流階級や地方の名士の子女も入学したという。1901 (明治34) 年の日本女子美術協会第一回美術工芸展に出品されたなか

でも本校の作品は好評であった。

この頃の手芸学校の状況については、「学校の名声は上り卒業生は高給で諸学校・諸機関に就職し、入学志願者全員の収容は不可能となり、競争率激化、生徒の資質、教育内容も一段と向上した」と評されている (氣賀健生『青山学院の歴史を支えた人々』学校法人青山学院、2014 年、258頁)。こうした発展には、教員たちの熱意ある教育の成果のみならず、それを十分に修得できる生徒の意欲と優秀さがあり、さらに家族の理解や教育水準に対する社会的な承認が

あったとみてよいのだろう。

男尊女卑の日本社会において女性の社会的地位向上のために挑んだ二人の女性宣教師の献身



手芸学校授業風景 刺繍



手芸学校授業風景 彫刻

による、手芸教室に始まる女性の自活・自立のための技術・教養教育は日本女性の心をつかみ、その進路を広げていった。全国に広がっていく手芸専門学校の主導的な役割を果たすとともに、日本の女子教育において独自の位置を占めていたのであった。

「青山ジュニア・タイムズ」

中等部司書教諭 森田 久美子

中等部の新聞委員会（新聞部）が企画から発行までを行っていた資料を紹介する。本稿のタイトルはタブロイド判の紙名で、青山学院資料センターが所蔵するのは2分冊された合冊本。第3号（昭和25年3月25日発行）から第116号（昭和57年3月15日発行）までを収めている。（注1）

概要

発行頻度：年1回から4回までフレキシブル。おそらく、新聞委員会の構成人数により増減したと思われる。1学期に1回を目標に企画編集を行っていたようだ。

ページ数：早くも第4号（昭和26年3月22日発行）で1枚（表裏2ページ）を脱却、2枚（4ページ）で頒布された。発行頻度と相関関係にあり、活発に活動している時期は4枚と充実している。

発行元：第10号（昭和27年10月15日発行）で、青山学院中等部から「青山学院中等部 学友会」と表記が変わり、以後、第72号（昭和38年7月

12日発行）からは「青山学院中等部」と再度改まっている。10号にも72号にも、発行元表記の変更については特に紙面を割き言及していない。「青山ジュニア・タイムズ」のロゴは33年間変わっていないが、横に表示される発行元等の情報は右/左、縦書き/横書き、バラエティーに富む。中等部のイメージ「自由にのびのび」がこういったところにも表れているようで興味深い。

行動力を活かした記事の数々

以下、特徴的な紙面を紹介してみよう。

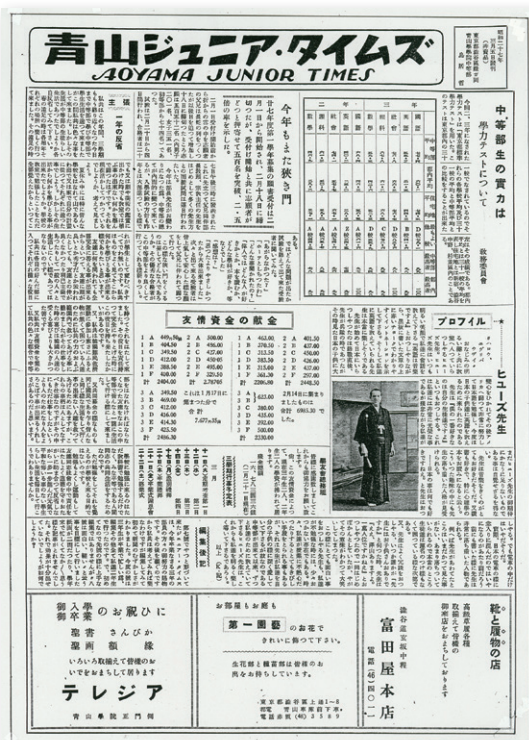
▽入学試験日・合格発表日にインタビュー

昭和33年3月20日発行の第40号では「入学試験風景」と題し1面を割き、入試当日と合格発表時に受験生・受験生保護者・係生徒・教員のべ58人にインタビューを行い、試験(面接)の手応えや中等部の印象を尋ねている。（注2）

「問題を前に鉛筆片手に考え込む受験生」の様子も伝えているのは、試験日前に企画を立案し準備、係生徒が新聞委員としての責務も果たそうと観察していたという事か。当時は身体検査・筆記試験(4教科)・面接と4日かけ行われ、倍率は約4倍、身体検査5日後に、昨年比で「非常にスピード・アップされ」合否を発表した事などが伺い知れる。「飛び上がる程嬉しい」(男子)、「女子は思い思いのはでな服装をしているのが、非常に目立った」(女子の母・筆者注：制服ブレザー導入前)等々、関係者からなかなか本音を引き出している。

▽ペギー葉山さんを訪ねる

昭和37年の夏休みにNHKへ出向きOB/OGインタビュー第1弾を第69号にまとめている。（注3）アポイントを取った様子や取材記者の人数等は不明だが、リハーサルをスタジオの片隅で見学、一番つらかったのは「芸能界と学業の両立」、芸能界で役立ったのは先ず「英語」、次に「青山の良い意味での自由主義(中略)お友達ちもすぐつくれます」と30分かけ応じていただいた。



▲オーソドックスな紙面（広告つき）

▽夏休みを利用し教員宅を訪問

部長（学校長）はじめ4名の恩師を表敬訪問している。トップの部長宅訪問は、驚くべき事に火災に遭い半焼、改築を終えた2か月後。火事の原因から被害の全容、失意の中で一番心を動かされた「困った時には皆で助けようと言う青山精神」－社会人となっている卒業生による寄付、洋服屋の差向け、無残な焼け跡へのテントはり活動等まで聞きだし、記事にまとめている。（注4）

また、片道80分かけ棟居教諭の「配偶者の実家」を訪ね、インタビュー前に小山に登り見晴らしを楽しみ、海で遊び、生後まもないお子さんをあやす良いお父さんの一面を紹介もする等、現代の感覚でいえば「自由闊達に」「個人情報いっさい配慮なし」な記事をまとめている。

記事にみる図書館の変遷

司書教諭としては、どうしても図書館関連の記事が目につく。新着図書を紹介や読書週間特集等は様々な時期に組まれているが、本稿では図書館（図書室）の変遷に絞って紹介したい。

▽昭和24年4月～30年3月（注5）

紙面上、図書室に関する最も古い記述は第6号（昭和26年12月21日発行）。1階奥の社会科教室の一郭を間借りし運営していたようだ。

- ・貸出期間：毎週金曜日放課後～翌週月曜日
- ・図書委員：各クラス1～2名
- ・蔵書冊数：約3,500～3,600冊（含 洋書）

蔵書数は「戦後新設された東京の中学校でも随一」との表現がある。世界/日本問わず文学全集がよく借りられていたようだが「宿題に出されたものを調べる人が多い」記述がある点、当時すでに学習センターとしての機能を果たしている様子には驚かされる。

▽昭和30年5月～ 図書室から図書館へ（注6）

中庭に鉄筋コンクリート2階建ての新図書館がオープン。ロビーに新聞雑誌を配しブラウジング機能をもたせ、閲覧室は生徒用と教員用を別にし静謐を保つ工夫、壁面を使い視聴覚資料も映写できる工夫が当時からされている。移転を機に蔵書も約800冊増え、昭和31年5月末現在、約7,000冊・毎月20冊増との記録もある。

以降、昭和41年2月の新校舎完成（東校舎2



▲脚を使いまとめた企画（第69号）

階へ移転）（注7）まで中等部生徒の学習を支える。

＊

以上、昭和56年度末に最終号（116号）を迎えるまで、記事のごく一部を紹介した。顧問だけの時代、昭和50年7月1日創刊の「中等部便り」への吸収等、様々な変遷を経て幕を閉じた同紙。昭和37年創刊の『緑友』、Web版・紙媒体の「学友会通信」に継承され、発信し続けている。（注8）

（注）

- 1: 中等部メディアセンター（図書館）では第2号（昭和24年11月25日発行）から所蔵（欠号あり）。
- 2: 「入学試験風景」『青山ジュニア・タイムズ』第40号、昭和33年3月20日 4面 これまでも試験問題を掲載したり（昭和28・30年3月）、受験生インタビューをコラムにまとめたりしているが、1面掲載は第40号が初。
- 3: 「卒業生訪問ベギー葉山さん」『同』第69号、昭和37年10月5日 4面 続く安井部長・棟居教諭へのインタビューも同号
- 4: 記事中の表記は一貫し「部長先生」。固有名詞は記載されていないが、第4代・安井正男氏と思われる。典拠資料は『語りつくす青山学院中等部の30年 1946年～1976年』1976 中等部年表 p.322
- 5: 中等部メディアセンター所蔵『青山学院中等部資料①』中等部校舎平面図(1949年4月) 「学友会便り 図書室訪問」『青山ジュニア・タイムズ』第6号、昭和26年12月21日 2面 「図書室ニュース」『同』第14号、昭和28年7月11日 4面
- 6: 「中庭に図書館 完成は来年三月」『同』第19号、昭和29年12月21日 1面 「図書館完成近し」『同』第20号、昭和30年3月18日 6面 「図書館のひとりごと」『同』第28号、昭和31年5月31日 4面
- 7: 前出『語りつくす青山学院中等部の30年 1946年～1976年』中等部沿革 p.15 この時期『青山ジュニア・タイムズ』が発行されていたら新校舎の完成を大々的に報道していたと思われる。が、該当の第85～88号（昭和40年1月～41年6月）は欠号。
- 8: 「ジュニア・タイムズの歩み」『青山ジュニア・タイムズ』第111号、昭和54年7月20日号 1面 「中等部便り」一主に保護者と中等部を繋ぐ連絡媒体として発刊。月2号ペースを原則に出され、2020年7月現在、通巻916号。『緑友』一有志「緑友編集委員」を募り年1回刊行。2019年度末発行号で通算59号を数える。

1. 月別利用者数（ ）内は前年度の数

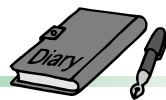
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
展示見学者数	152 (206)	293 (406)	134 (475)	199 (146)	27 (89)	82 (223)	887 (1545)
資料閲覧者数	20 (15)	10 (12)	7 (7)	9 (18)	0 (13)	5 (6)	51 (71)
閲覧者の区分							
本学学生	7 (2)	1 (3)	3 ()	1 (12)	0 (6)	0 (1)	12 (24)
現教職員	5 (3)	3 (1)	1 (1)	0 (2)	0 (4)	2 ()	11 (11)
旧教職員	1 (5)	0 (4)	1 (2)	2 ()	0 (1)	0 ()	4 (12)
校友	3 (1)	2 ()	0 ()	1 (2)	0 ()	1 (2)	7 (5)
他大学教員	1 (1)	1 (1)	0 (2)	4 ()	0 (1)	1 (1)	7 (6)
牧師	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	1 ()
一般	3 (3)	3 (3)	2 (2)	0 (2)	0 (1)	1 (2)	9 (13)
利用の目的							
教会史編集	0 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 ()
学校史編集	1 (4)	0 (4)	0 (2)	1 ()	0 ()	2 ()	4 (10)
著述・論文作成	8 (6)	2 (4)	4 (3)	4 (12)	0 (7)	2 (1)	20 (33)
伝記資料調査	4 ()	1 (2)	2 (1)	0 (1)	0 (1)	2 (2)	9 (7)
記録類の調査・研究	4 ()	0 ()	0 ()	3 (3)	0 ()	0 (3)	7 (6)
その他	3 (5)	7 (3)	1 (1)	1 (2)	0 (5)	1 (2)	13 (18)
資料の種類							
青山学院史関係 (AA)	9 (7)	1 (5)	4 (4)	5 (4)	0 (7)	0 (5)	19 (32)
メソジスト教会関係 (B)	1 ()	2 (1)	1 (1)	0 ()	0 ()	2 ()	6 (2)
英語・英文学関係 (JIF)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
明治期キリスト教関係 (JIG)	8 (5)	0 (1)	0 (1)	2 (1)	0 ()	1 ()	11 (8)
一般分類図書	1 (2)	2 (6)	3 (1)	2 (13)	0 (7)	1 (1)	9 (30)
その他	1 (1)	5 ()	1 ()	0 ()	0 ()	1 ()	8 (1)
資料の形態 (閲覧点数)							
図書	53 (41)	74 (25)	48 (6)	45 (56)	0 (62)	16 (8)	236 (198)
マイクロフィルム	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()
写真 (含ネガ)	3 ()	0 ()	0 ()	0 (1)	0 (1)	1 ()	4 (2)
アルバム	0 (1)	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 (2)	0 (3)
個人資料ファイル	2 ()	2 (1)	29 (1)	5 (1)	0 ()	0 (1)	38 (4)
ビデオ・DVD等	0 (3)	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	1 (3)
その他	34 ()	1 ()	0 ()	0 ()	0 ()	0 ()	35 ()

※利用の目的・資料の種類は重複回答あり

2. 月別レファレンス件数（ ）内は前年度の数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	18 (9)	10 (5)	9 (4)	7 (10)	11 (14)	7 (11)	62 (53)
質問者の区分							
学生	1 ()	0 ()	1 (1)	0 ()	0 ()	0 (1)	2 (2)
現教職員	8 (5)	3 (1)	5 ()	6 (5)	7 (5)	4 (5)	33 (21)
旧教職員	0 ()	0 ()	1 ()	1 (1)	0 (3)	0 (2)	2 (6)
校友	1 ()	3 (1)	0 ()	0 (2)	1 (1)	1 ()	6 (4)
一般	8 (4)	4 (3)	2 (3)	0 (2)	3 (5)	2 (3)	19 (20)
質問内容							
文献所蔵調査	5 (1)	1 (2)	1 (1)	1 (3)	2 (3)	3 (4)	13 (14)
写真所蔵調査	4 (1)	3 ()	3 (1)	2 (2)	2 (3)	2 (4)	16 (11)
事項調査	6 (5)	6 (3)	4 (2)	4 (5)	6 (8)	2 (3)	28 (26)
その他	3 (2)	0 ()	1 ()	0 ()	1 ()	0 ()	5 (2)

3. 日誌抄



2019年10月

- ・女子短期大学同窓会教養学科会、展示ホール見学
- ・総合文化政策学部の授業で展示ホール見学
- ・全国大学史資料協議会主催の大学見学会に出席（学習院大学、日本女子大学）
- ・大学主催講演会「青山学院大学の稀観本と書物のデジタル化」開催に伴うBiblia Latinaほかの特別展示開催
- ・展示検討小委員会開催
- ・第2回資料センター運営委員会開催
- ・安全衛生委員会による職場巡視
- ・他部署主催会議に出席 1回
- ・人事部主催考課者研修会に出席
- ・人事部主催サバント・リーダー育成プログラム研修会講師
- ・大学教授来室（150年史編集のため） 7回

11月

- ・サザンクロス大学、展示ホール見学

- ・手線沿線私立大学図書館コンソーシアムWG、展示ホール見学
- ・特別展示「相模原キャンパスの15年」開催（11/15～12/24）（同時開催「写真で振り返る相模原キャンパスの15年」於：相模原キャンパス）
- ・大学編入転入・社会人入試応援業務
- ・他部署主催会議に出席 3回
- ・人事部主催メンタルヘルス研修会に出席
- ・人事部主催「モチベーションマネジメント」研修に出席
- ・防災館体験学習に参加 1名
- ・大学教授来室（150年史編集のため） 6回

12月

- ・初等部3年生の授業で展示ホール見学
- ・「Aoyama Gakuin Archives Letter」21号発行
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 1回
- ・人事部主催サバント・リーダー育成プログラム研修会講師
- ・AOYAMA VISION研修会に出席
- ・青山学報編集委員会に出席
- ・他部署主催会議に出席 1回
- ・大学教授来室（150年史編集のため） 8回

2020年1月

- ・初等部3年生の授業で展示ホール見学

- ・第2回「青山学院の歴史を語り合う会」公開座談会～戦争末期・終戦直後の青山学院～開催
- ・登録有形文化財対象の消防署査察
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 5回
- ・大学入試センター試験応援業務
- ・大学定期試験監督業務
- ・他部署主催会議に出席 2回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 7回

2月

- ・押絵雛展示（2/17～4/30）
- ・展示検討小委員会開催（メール形式にて開催）

2019 年度後期受入れ

資料

(学内部署からの資料は除く)

寄贈（敬称略）

- 露木明（校友の親族）小崎弘道、千代ほか小崎家関係資料（アルバム、写真、文書多数）
- 佐藤晟雄（校友）「わたしのスケッチブック」(18) 佐藤晟雄著 2019年10月10日
- 齋藤水樹子（職員）『キリスト教的ヨーロッパ史』ヨハネス・ラウレス著 中央出版社1956年5月10日、世田谷キャンパス点火祭 写真2点 2002年
- K.Johnson（元教員）青山学院宗教センター・ウェスレーホール献堂記念風呂敷、青山学院創立八十五周年記念風呂敷（次頁写真①）各1点
- 川上善子（校友の親族）青山学院高等女学部 昭和11年卒業50周年記念合同クラス会写真 1986（昭和61）年4月7日（ほかクラス会写真2点、「後遺症からみたハンセン病：整形外科の立場から」小原安喜子（校友）著『Japanese journal of leprosy』72号抜刷 2003年7月30日ほか抜刷3点、小原朝恵（校友）旧蔵アルバム
- 聖路加国際大学大学史編纂・資料室『聖路加看護大学のあゆみ』第3版 聖路加看護大学大学史編纂・資料室編 聖路加国際大学 2019年8月31日
- 川島瑞枝（校友）高等女学部卒業証書 古屋須美子 昭和6年3月10日（次頁資料②）、中等部第3回卒業式次第 1952年3月21日、中等部生徒手帳 昭和26年度、高等部生徒手帳 昭和27年度 ほか写真9点
- 吉田恵子（校友）創立80周年記念手ぬぐい 1954年、青山学院ハケ岳寮完成記念手ぬぐい [1963年]、青山学院初等部うんどうかい手ぬぐい 1956年、青山学院初等部 校章
- 青山学院高等部同窓会「青山学院高等部同窓会報」78号 2019年10月15日、青山学院高等部同窓会クリスマスカード 2019
- 大坂達夫（元職員）「相模原市と米軍基地」（ダイジェスト版）相模原市 平成14年
- 滝沢民夫『増野悦興研究 埋もれたキリスト者の生涯と思想』滝沢民夫著 六花出版 2019年9月30日
- 教文館出版部『長谷川誠三 津軽の先駆者の信仰と事績』岡部一興（元大学非常勤講師）著 教文館 2019年10月30日
- 鈴木保美（校友）「鎌倉を愛する会」三上次男（元教員）著 1980年2月16日、「青山学院大学日本文学科 鎌倉見学会資料」2019年10月19日
- 大橋弘（校友）「THE THIRD MILLENIUM」青山学院大学神学科同窓同人誌（5） No.51（2015年9月）～No.80終刊（2019年6月）合本、『いつくしむ』大橋弘著 日本キリスト教団八千代台教会 2003年3月1日
- 吉岡勝見（校友）「グリーンハーモニー OB NEWS」No.60 2019年11月、青山学院大学グリーンハーモニー合唱団65回記念定期演奏会チラシ(2019年12月1日開催)
- 李明泉 Robert.S.Spencer（元宣教師・教員の親族）よりRev. F.W.Patenへの書簡の封筒 大正15年2月2日
- 犀川珠子（校友）『道遙か ハンセン病者の傍らに』犀川珠子、犀川一夫著 私家版 2019年9月15日訂正再版（次頁写真③）
- 清水紘一『浦上キリシタン資料 四番崩れの際に没収された教理書・教会暦など』改訂増補版 カトリック浦上教会歴史委員会編 里文出版 2019年10月19日
- 中村早苗（元職員）研究ノート「戦前のキリスト教主義学校に存在した2つの幼稚園とその保育者たち-海岸女学校付属幼稚園と青山学院緑岡幼稚園における幼児教育-」中村早苗著『幼児教育史研究』第14号抜刷 2019年

- ・短大ギャラリー展準備、打合せに参加
- ・AGUデジタルアーカイブプロジェクトによる貴重書スキャン 3回
- ・大学入試業務
- ・他部署主催会議に出席 2回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 2回

3月

- ・「2018年度の寄贈資料展」開催（3/17～4/30）
- ・大学学位記配布応援業務
- ・他部署主催会議に出席 4回
- ・大学教授来室（150年史編纂のため） 8回

- 村上由美子（校友の親族）『雛は佇む 村上博子選詩集』島朝夫（元女子短期大学学長・島崎通夫）編 花神社 2001年5月2日
- 飯久保廣嗣（校友・名誉理事）『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書 改譯』聖書協会連盟 1946年、『教会週報』1947年12月14日～1953年12月27日 青山学院教会、『教会週報』1954年1月10日～1957年6月2日 青山学院教会
- 愛媛県生涯学習センター「城ノブ ～女性の救済に殉じた社会事業家～」令和元年度愛媛人物博物館企画展展示解説書 2019年12月1日（次頁写真④）、「城ノブ ～女性の救済に殉じた社会事業家～」令和元年度愛媛人物博物館企画展 チラシ 2019年12月7日～2020年3月8日
- 青山学院大学文学部英文文学科同窓会 会報「Aoyama Sapience」第42号 青山学院大学文学部英文文学科同窓会 2019年12月15日
- 木村匠（校友・職員）青山学院管弦楽団第24回定期演奏会パンフレット 1974年6月21日
- 鹿久保さちよ（校友の親族）竹岡キリスト教会での集合写真 明治39年（複製）
- 笹森在子（校友の親族）緑岡初等学校第2回修了児童記念写真帳（第7代院長・笹森順造旧蔵）昭和19年3月
- 下河遣史郎（校友）「緑ヶ丘通信」No.121～122号 青山学院大学山岳部OB会 2019年8月28日、12月20日
- ノートルダム清心女子大学『ノートルダム清心女子大学史 2009-2018』ノートルダム清心女子大学10年史編集委員会編 ノートルダム清心女子大学 2019年12月8日
- 松谷暉介『日本の中国占領統治と宗教政策 日中キリスト者の協力と抵抗』松谷暉介著 明石書店 2020年1月15日
- ケン山田（校友・名誉博士）Bishop David Kekumba Yemba (=Africa University Chancellor) とケン山田 写真ほか2点、「HONORARY NEBRASKA CITIZEN」(アメリカ ネブラスカ州名誉市民の証書) 1983年2月25日、「DOCTOR HONORIS CAUSA AL SR. Ken Yamada」UMAD (メキシコのマデロ大学名誉職 カバー付き賞状) 2015年10月9日、「MARTIN METHODIST COLLEGE PULASKI, TENNESSEE PRESIDENT'S MEDALLION」(テネシー州プласキーにあるマーティンメソヂスト大学より贈呈されたメダル 木製箱入り) 2012年10月23日（次頁写真⑤）ほか資料多数
- 図書館とともだち・鎌倉『問島愛歌集』問島愛（問島弟彦夫人）著・発行 私家版 1953年10月25日 電子複写資料
- 秋山霞子 岡山孤児院関係写真、宇和島教会関係写真、J.C.デヴィソン（元宣教師・元教員）関係写真（次頁写真⑥）ほか4点 いずれも明治・大正・昭和期撮影
- 伊東美香子（校友の親族）奥興（校友）旧蔵アルバム
- 金井守『生江孝之（校友・元理事長）先生と敬愛寮』金井守著 私家版 2020年1月
- 櫻井成嗣（元大学教員の親族）津田仙の書「垂珠国」（扁額）
- 牧野勤（校友・大学名誉教授）『Rowland Harker : A Life Story By Robert Hazen for The MRA Foundation』Bob Hazen著 1993年12月、中学部・滑空部 1943年（次頁写真⑦）ほか写真7点
- 安井至（校友）写真：終戦直後の学院構内での幼少期の写真 1947(昭和22)年～1951(昭和26)年頃 3点
- 井田昌之（元教員・大学名誉教授）『A daughter of the samurai』by Etsu Inagaki Sugimoto Doubleday, Page & Co. 1926年
- 木村光彦（元教員・大学名誉教授）『The Bible(ロシア正教の聖書)』2000年（次頁写真⑧）ほか各国聖書4点、『第5回木村ゼミ卒業論文集』2011年3月、『Church over Nation Christian Missionaries and Korean Christians in Colonial Korea』Motokazu Matsutani著 2012年5月、『アメリカ映画とキリスト教』木谷佳楠著 キリスト新聞社 2016年12月19日、『Father Damien Hawaii's Saint』ほか資料4点、
- 道山秀樹 本多庸一氏が写っているアメリカの教会での集合写真 明治43年9月10日 於：リバサイド美以教会
- 吉岡康子（教員）都田恒太郎（校友・元理事）牧師「アメリカ聖書協会会員証」1952年5月8日（次頁写真⑨）、宗教法人「日本基督教会 緑岡教会」沿革ほか資料多数

- 中嶋弓子 DVD: NHK「ファミリー・ヒストリー」(フジコ・ヘミング編) 2020年
- 横須賀市教育委員会生涯学習課 万代順四郎秘書・新島保雄による高木家文書
- 桜美林大学「清水安三記念プロジェクト」『清水安三・郁子研究』第12号(最終号) 2020年3月30日
- 中塚淑子・あき子(本多庸一の親族)「JAPANESE AMERICAN NATIONAL MUSEUM」1999年8月26日、「RAFU SHIMPO(羅府新報)」2007年5月30日、「RAFU SHIMPO(羅府新報)」2007年6月23日



写真①青山学院創立八十五周年記念風呂敷



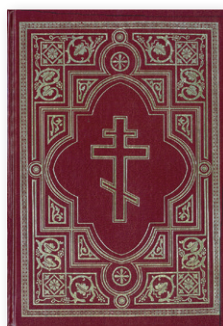
写真②青山学院高等女学部卒業証書



写真⑥J.C.デヴィソン、H.B.ジョンソン、J. ソーパー



写真⑦中学部 滑空部



写真⑧『The Bible (ロシア正教の聖書)』

購入

- 『日本学生基督教青年会同盟』第1巻第1号～第6号合本 警醒社 明治31(1898)年 6月23日
- 『ハーレムの女』村上博子(校友)著 黄土社 昭和63(1988)年5月25日
- 『冬のマリア』村上博子(校友)著 黄土社 昭和59(1984)年2月25日(写真⑩)
- 『生江孝之集』生江孝之(校友、元理事長)著 鳳書院 昭和58(1983)年10月20日
- 『羅馬字譯バートル氏 英和会話』S.Okamoto 明治20(1887)年4月21日



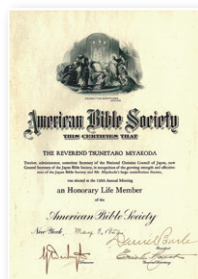
写真③『道通か』



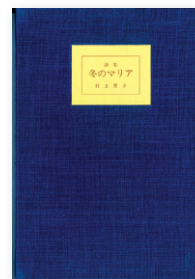
写真④『城ノブ』



写真⑤マーティンメソヂスト大学より贈呈されたメダル



写真⑨アメリカ聖書協会会員証



写真⑩『詩集 冬のマリア』

青山学院資料センター利用案内

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大に伴い、現在、学院施設入構制限措置がとられております。そのため、以下にご案内しております資料センター展示ホールは当面の間、臨時休館といたします。また、資料閲覧につきましても休止とさせていただきます。

なお、再開日時が決まりましたら、ホームページにてご案内いたします。

●展示ホールの見学

青山学院史関係資料の常設展示を無料にて一般公開しています。お近くにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

公開時間 月～金曜日 ▼9:30～17:00(入館は16:30まで)
土曜日 ▼9:30～13:00(入館は12:30まで)

●休室日

日曜日・国民の祝日・年末・年始・その他学院が定める休日
夏期期間<8/14(金)～8/20(木)>、8/15、22、29、9/5の土曜日

●資料閲覧

青山学院史、明治期キリスト教関係資料などを公開しています。特定の研究目的を持って閲覧ご希望の方は、電話・FAX・メールにてご連絡ください。

閲覧時間 (いずれも昼休み11:30～12:30)

月～金曜日 ▼9:30～17:00 土曜日 ▼9:30～13:00

●問い合わせ

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 間島記念館2階
青山学院資料センター
TEL 03(3409)6742
FAX 03(3409)8134

メールアドレス ag-archives@aoyamagakuin.jp

青山学院ウェブサイトの中に資料センターのページがあります。こちらをご覧ください。

<https://www.aoyamagakuin.jp/history/mcenter/index.html>

資料センター運営委員

院長(職務上)	山本与志春
常務理事1名(職務上)	楯 香津美
学院宗教部長(職務上)	大島 力
大学図書館長(職務上)	野末俊比古
大学 教員1人	小林 和幸
女子短期大学 教員1人	清水 康幸

高中部(高)	教員1人	佐藤 隆一
高中部(中)	教員1人	森田久美子
初等部	教員1人	窪田 靖
幼稚園	教員1人	赤坂 洋子
総局長(職務上)		石黒 隆文
資料センター事務長(職務上)	岩本 智実	

資料センタースタッフ人数

資料センター事務:

専任 2人 派遣 1人
パートタイム 2人
(週4日:1人、週5日:1人)

『青山学院150年史』編集業務:
大学文学部助手(出向) 2人
パートタイム 2人
(週3日:1人、週1日:1人)

